



挑戦心。

皆さんには夢や目標はありますか？何かに一生懸命取り組んでいますか？
人が一生懸命頑張っている姿は、とても素敵ですね。市内には、夢に向かって、日々挑戦し続けている子どもたちがいます。
今月号は、それぞれの夢に向かってひたむきに頑張る子どもたちを紹介します。
問合せ先 市秘書課広報係

「格好良い泳ぎをしたいと思います」と語る。
高校生になってからも水泳を続けていくという木村さんに、今後の目標を聞く。「今は全国大会に出場できて、全道大会に出場できて、全道大会でしか勝てない選手なんですけど、高校に入ったら全国大会でも戦えるような選手になりたいです」と力強く語ってくれた。



水泳
東光中学校 2年生
すわ はるき 諏訪 遥希 さん

お兄さんが水泳を習っていて、4歳頃から水泳を始めたという諏訪遥希さん。「最初は嫌々やっていたんですけど、だんだん慣れてきました」と話す。
メインの種目は背泳ぎで、メドレーやバタフライも練習しているという諏訪さん。「水中でのキックは自分の武器にしたいと思います」と、自分の強みを語る。
水泳の魅力は「練習でもレースでも競える相手がいるということが一番の魅力だと思っています。自己ベストを更新したり、全国大会でメダルを取ったりしたときはやっぱり嬉しいです」と笑顔で話す。
これまで多くの大会に出場してきた諏訪さんだが、「一昨年の北海道中体連で、最も得意な200メートル標準記録を切れずに全国大会に行けなくて。それが自分にとって、もっと強くなりたいと思ったきっかけになりました」と、ほろ苦い経験も語る。
試合では、「レース前に必ず自分の目標タイムを決めてから泳いでい



水泳
東光中学校 3年生
きむら かなで 木村 花奏 さん

お兄さんが水泳を習っていて、お父さんの勧めもあり水泳を始めたという木村花奏さん。「やってみたら楽しくて、それからずっと続けています」と語る。種目は自由形で、週5回の練習をこなしている。
「水泳は難しい競技なんですけど、少し工夫することで良いタイムが出たときやメダルを取ったときに嬉しくて。悔しいこともあるけど、そういう瞬間があるからずっと続けたい

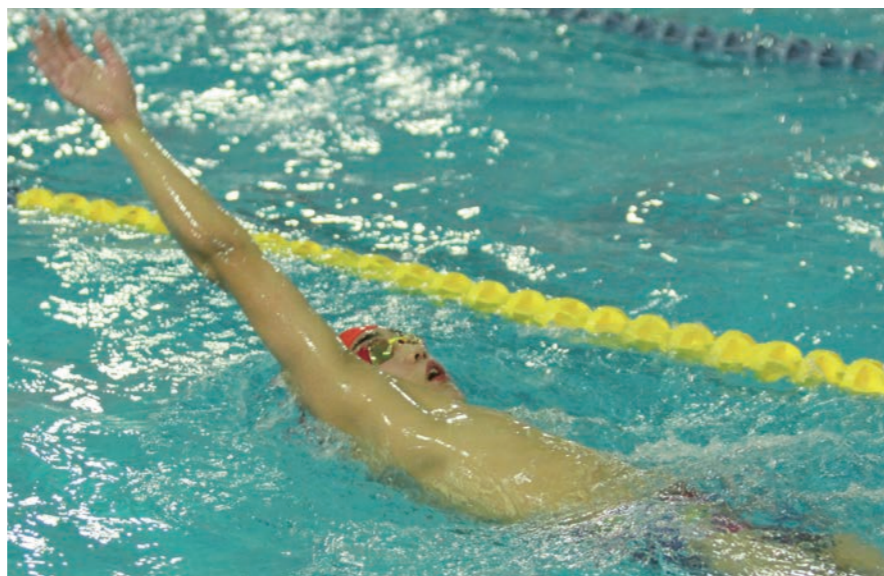
負けず嫌い、は一番の強み
この気持ちをいつも忘れたくない



誰にも
まけない!!

と思えます」と笑顔で話す。そんな木村さんの強みは、負けず嫌いなどころで、「誰にも負けたくないという気持ちが強いです」と語る。
今までで印象に残っている試合を聞いてみると、「中学1年生のとき、初めてジュニアオリンピックカップの全国標準記録を切ることができた試合です。そのときに周りのコーチと一緒に喜んでくれたのがとても嬉しかったです」と嬉しそうに話す。
試合に臨むときは、「自分より年上の高校生と泳ぐことが多いんですけど、その人たちには絶対負けたくないって思いながら泳いでいます」と語る。
目標とする選手を聞くと、「池江璃花子選手です。一つ一つが力強く、自分もあれくらい迫力があって

ます。もちろん、順位のことでも考えて臨んでいます」と話す諏訪さん。目標とする選手は、「瀬戸大也選手です。同じスイミングスクールの出身ということもあって、世界を舞台に結果を残しているところや、泳ぎに迫力があって、小柄だけどパワーがあるところも尊敬しています」と語る。
今後の目標は、「全日本選手権やジャパンオープンへの出場です。その前に全国標準記録を切り、ジュニアオリンピックカップや全国中体連で上位に食い込める選手になりたいです。将来的にはオリンピックにも出たいです」と力強く語ってくれた。



勝つことによって自分をレベルアップできる
勝たないと始まらない



勝つ!!



なみに、試合ではほとんど緊張しないそう、「あまり勝敗にこだわると、自分の気持ちだけが前に行って冷静に戦えなくなるので、落ち着いて試合に臨むようにしています」と話す。

菊地さんは今後も空手を続けていくそうで、「今回は全国3位だったんですが、同じ大会で日本一になるのが目標です」と力強く語る。

何事にも向上心を持ち、ひたむきに努力を重ねる姿が印象的な菊地さん。その努力が実を結ぶ日も近いだろう。



同年代で、長く一緒に戦ってきた諏訪さんと木村さん。お互いの選手としての印象を聞いてみた。

木村（諏訪さんは）練習でも強くて、本番でも速いタイムを出している、全国でも活躍しているのでもとても尊敬しています。

諏訪（木村さんは）自分よりも年上で水泳歴も長く、経験も多くて、どのように練習したらいいのかわかるのをはっきり分かってやっているとさすがだと思います。

さらに上を目指し、勝利を求め努力し続ける二人。今後もたくさんの経験を積み、より強くなった姿を見せてくれることだろう。



空手
緑中学校 2年生
菊地 咲 さん

4歳の頃に、両親の勧めで空手道の体験に行ったことがきっかけで空手を始めたという菊地咲さん。「あまり覚えていないんですけど、『楽しかった』と言っていたみたいです」と笑顔で話す。

空手にはさまざまな流派があるが、大きく分けると、蹴りや突きを相手に当てず寸止めにするノンコンタクトと、相手に直接打撃をするフルコンタクトがある。菊地さんはフルコンタクトの選手だ。ケガも多く、稽古や試合に集中している気付かないうちにケガをしていることもあるそう。週3回、幅広い年代の方と一緒に稽古している。

空手をやっていて良かったと思うことは？と聞くと。

「技術だけではなく、空手を通して学んだことを学校生活や空手以外の場所で生かせることです。例えば、空手には上下関係があるので、目上の人への気配りが大切です。学校でも、先生が荷物が多くて困っているのを見かけたら、持つの手



水泳
日の出小学校 6年生
猪股 颯響 さん

お姉さんとお兄さんが水泳をやっている姿を見て、自ら進んで水泳を始めたという猪股颯響さん。「姉や兄が大会でメダルを貰っていて、私もそれが欲しいと思って、母にお願いして始めました」と笑顔で話している。

種目はバタフライで、水泳を続けていて良かったことを「大会で良いタイムが出たり、友達とかに『頑張ったね』って言われたりするのがとても嬉しくて、それが一番です」と語る。

そんな猪股さんの強みは、飛び込みのリアクションタイム（スタートの合図から飛び込みまでの速さ）で、「速すぎるときもあるけど、かなりギリギリを攻めていけるからそれが武器だと思います」と語る。

試合前は緊張しやすいそうだが、「飛び込み台に立ったときからは集中して、良いタイムを出さずっていう気持ちで臨んでいます」と話す。

昨年7月に行われた、JSCAプロック対抗水泳競技大会選考会に出場した猪股さん。「北海道プロ



自分に負けると相手にも負けちゃう
強い心を持ち続けたい

伝ってあげるとか、そういった周りを見る力が少し身に付いたのかなと思います」と語る。

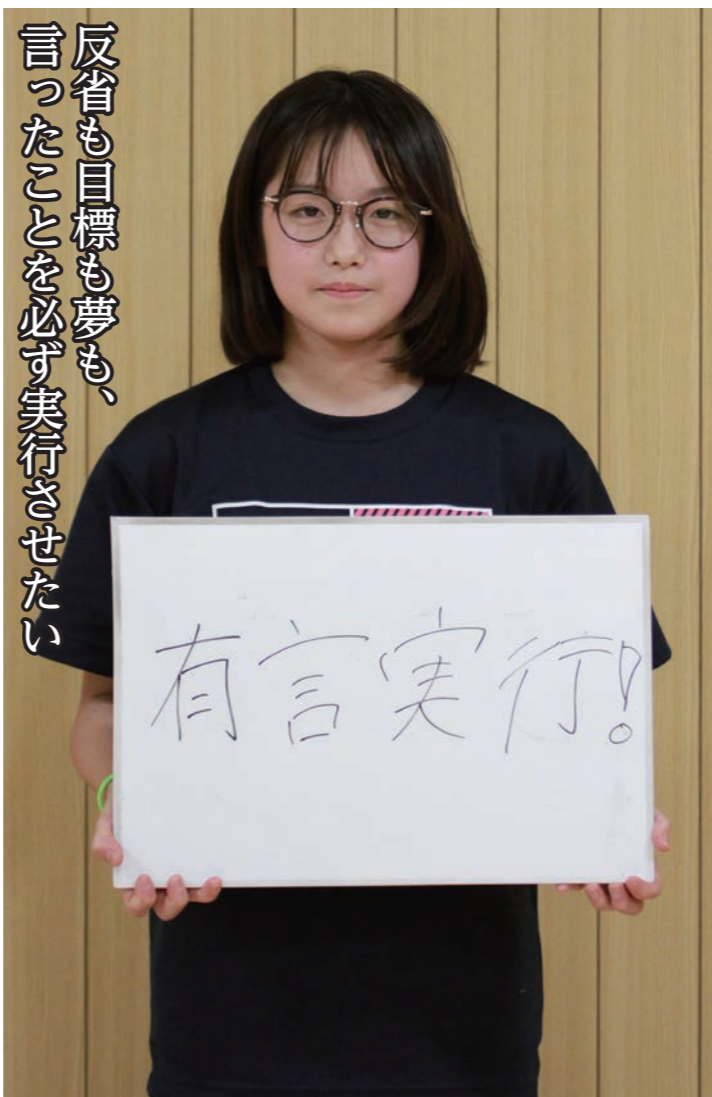
稽古中は後輩たちの指導にも携わっている菊地さん。型の動きや体の使い方など、指導している後輩一人一人の様子を見ながら細かいところまで丁寧に教えていく。「もっと分かりやすく教えられようになりたい。将来は小学校の先生になりたい。そこにも生かせられるように指導力を身に付けていきたいです」と、将来を見据えた目標も話してくれた。

菊地さんは昨年3月に行われたGLOBAL POINT&K.O.第34回国際空手道選手権大会で全国3位に輝いた。「小学1年生のとき以来の全



国大会入賞だったので、とても印象に残っています」と嬉しそう。

そんな菊地さんの強みは、力の強さで、「突きや蹴りの力は強いんですけど、スピードがまだ追い付いていないのが課題です」と語る。ち



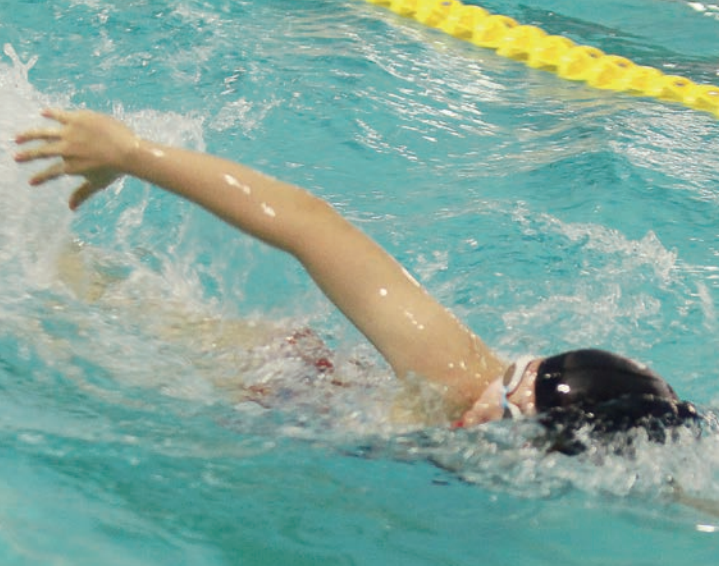
反省も目標も夢も、
言ったことを必ず実行させたい

ク大会のときに、標準記録は切っていたんですけど2位の選手に負けちゃって。0・09秒差で全国大会に行けなかったの、それが悔しくてとても印象に残っています」と語る。

目標の選手を聞くと、「瀬戸大也選手です。自分と同じバタフライでも泳ぎ方が全く違い、タイムもとても速いので憧れています」と話す。

今後の目標を聞いてみると、「練習でも負けてしまうことがたくさんあるので、一つのことしっかり集中すること、今年の春のジュニアオリンピックの標準記録を切ることです。それに向かって練習でも一つ一つのことに集中していきたいです」と語ってくれた。





水泳を習っていたお姉さんの影響で水泳を始めたという永坂優花さん。種目は自由形で、水泳を続けていて良かったと思う瞬間を「大会で自己ベストが出て、今まで練習してきたことが報われたときです」と嬉しそうに語る。

そんな永坂さんの強みは、ターンの速さ。で、「隣の人と同時にターンしても自分のほうが先に出るので、それが武器だと思います」と話

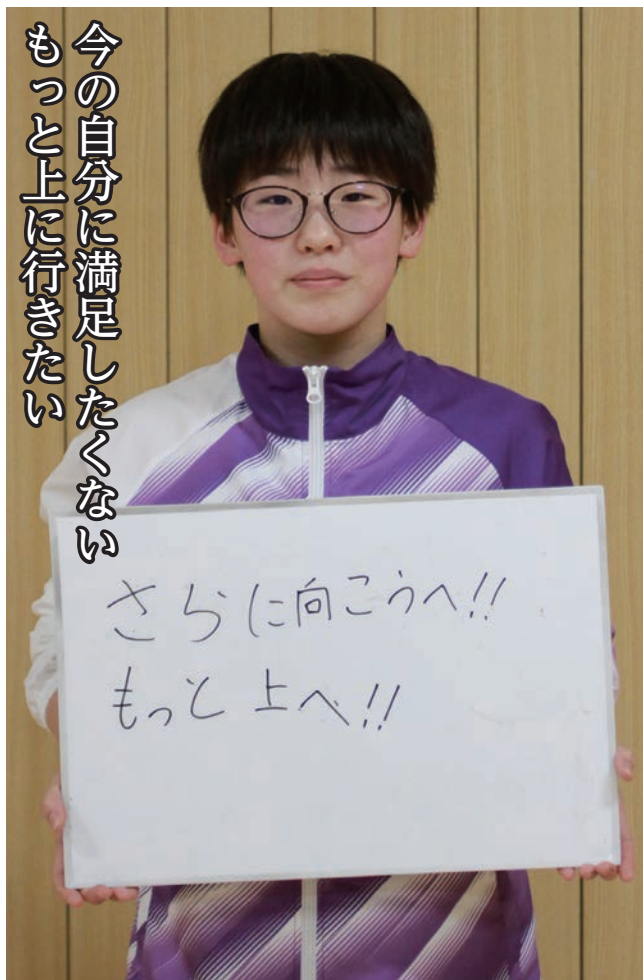


水泳

第二小学校 6年生
ながさか ゆうか
永坂 優花 さん

試合では、「隣の選手に絶対勝つてやるっていう気持ちで臨んでいきます」と語る永坂さん。これまで出場した試合の中でも、昨年のJSCA（ジャスカ）ブロック対抗水泳競技大会選考会が印象に残っているという。「標準記録を切っていて、全国大会に行くはずだったんですけど、台風で行けなくなってしまったのが悔しかったです。今年も同じ大会があるので、また良いタイムを出して今年こそは行きたいと思います」と語ってくれた。

そんな永坂さんの目標とする選手は、「中村克選手です。100歳の自由形を47から48秒台で泳ぐので、私も1分を切るくらいの速さで泳げるようになりたいです。中村選手はタツチも上手なので、真似していきたいです」と話す。



今の自分に満足したくない
もっと上に行きたい

さらに向こうへ!!
もっと上へ!!

今後の目標は、「今まで全国大会には出たことがあるんですけど、それで満足している自分がいると思うんです。だから今の自分に満足せず、練習をもっと頑張つて、もっと上を目指したいと思います」と力強く語ってくれた。

同い年で、同じスイミングスクールに通う猪股さんと永坂さん。お互いの良いところを聞いてみた。

猪股（永坂さんは）練習でもとて、も積極的で、自分から先頭を泳いでいくんです。本当は私も先頭に行きたいんですけどなかなか行けないので、そこがすごいと思います。

永坂（猪股さんは）私が辛い練習をしているときやあまり良いタイムが出ないときに、励ましてくれ

たり面白いことを言ってくれたりするので、とても助けられています。

悔しさも力に変え、互いに切磋琢磨しながら高みを目指す二人。今後の活躍が楽しみだ。



市内には、今回紹介した子どもたち以外にも、さまざまな分野で一生懸命頑張っている子どもたちがたくさんいます。

目標を実現するために努力し続けることは簡単ではありませんが、その経験は自信につながり、これからの人生の糧となることでしょう。

市はこれからも、夢に向かって頑張る子どもたちを応援します。